朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校
児童数　１０７０名
令和６年６月１日号

社会総がかりでウェルビーイングのある教育を

校 長　田邊　雅也

体力テスト計測応援団

5月の体力テストは関心のある子とそうでない子の差が大きい活動です。これまでも、体育委員会の児童が記録をあげるための動画を出したり、教員が体力づくりキャンペーンをしたりなど、体力向上の啓発活動を行ってきましたが、今年は新しい試みを始めました。

初めて、保護者に向け、計測の応援団を募集しました。今は練習の期間ですが、校庭や体育館での教師の指示が通りづらいときには、子供たちに詳細を伝えたり、記録を伸ばしたいとがんばる子供たちを応援したりしてくださいました。おかげさまで、子供たちは、例年以上に、モチベーションが高いようです。「自分で・自分から」の気持ちで、記録を伸ばしてくれると、子供・学校・保護者にとっても、Winです。皆様のご協力に心より感謝しております。

保護者は教育人財・教育環境

六小の学びでは、実際に地域に足を運び、体験したことを各教科に生かしていく機会が増えています。子供たち一人一人のニーズに応え、かつ、安全を確保するためには、保護者の皆様のご協力が欠かせなくなっています。この4月と5月は、地域を探検したり、学区内の公園に行ったり、黒目川に行ったり、街角調査をしたりすることができました。実際の体験から、学びに広げていく機会が、昨年度から格段に増え、共に学びを創ってくださっています。

5月25日（土）の学校公開日でも、来校した保護者を「教育人財」、「教育環境」と捉え、保護者を相手に、発表したり、インタビューしたり、交流したり、助言をもらったりしながら、少しでも深い学びにつなげていくような授業がたくさんありました。

その道の専門家とのお付き合い

地域には、いろいろな専門家がいらっしゃいます。新たに打ち合わせさせていただいているのが、和菓子職人さん、お茶屋さん、YOSAKOIやお囃子の指導者さんなど、地域で伝統文化の継承者の方です。また、学校公開日では、万一の震災時の「共助」として、富士見町内会、朝霞市消防団第五分団の皆様も来校し、顔の見えるお付き合いを始めてくださいました。

また、大学との学術的な連携を始めています。お隣の本町保育園さんでの幼児教育をご指導されている大学の先生から理論と実践を学んでいきます。遊びから探究する園児の学びを低学年の教育活動にどう生かしていけるのか。円滑な幼保小の連携と「自律と探究」をどう学びにつなげていけるのか、という試行錯誤も始めました。

教員は、授業デザイナーへ転換

どう授業を創造していくのかは、教員の大きな仕事です。知識や情報が検索すればすぐ手に入る時代となり、話題の GPT-4o（ジーピーティーフォーオー）※ のような最新テクノロジーも、子供たちは使いこなしていくでしょう。ますます教員が知識を教え込むことが重要視されなくなっていくと思います。これまでの教え込み教育から、大きく転換しようとしています。

これからは、「自分で・自分から」学びを深め、身につけた力を、「誰かのため・何かのため」に、どのように生かしていけるのか、という授業をデザインしていくことになるでしょう。教科書・資料集などの教材、保護者・地域の人材、子供たちの持ち味を材料にして、「将来にわたる生きて働く力」を身につけさせるという授業のデザインです。教員の仕事も、昭和・平成の一斉の指導者から、授業デザイナーへ転換が始まっています。

社会総がかりでウェルビーイングのある教育を

こうした変化が新時代の教育だと捉えています。実社会や地域での体験、教室での学びで身につけた知識や技能を繋ぎ、「生きて働く力」を身につけていく学びが新時代の教育と言えます。

日々の学びを自分ごととして捉え、自分たちで問いを生み、試行錯誤し、その反省から、次なる問いを出し、さらに試行錯誤する。そうした探究のサイクルの中で、「自分で・自分から、誰かのため・何かのため」の思いにつながる教育活動を、学校・保護者・地域が総がかりで生み出していけたら、と思っています。

「自律と探究」をさらに深化させ、今年度の目指す学校像「社会総がかりでウェルビーイングのある教育を」の試行錯誤は始まったばかりですが、ご理解、ご協力をお願いします。

※GPT-4o（ジーピーティーフォーオー・GPT-4 omni オムニ）
米OpenAI社が5月13日に発表した最先端のAI。人間の表情・背景などもリアルタイムで認識し、人間と同じように応答できる。